

# 道徳学習指導案

指導者 榎田 有香

- 1 日 時 平成 24 年 11 月 5 日 (月) 5 校時
- 2 学 年 第 3 年 1 組 23 名 [3 年 1 組 教室]
- 3 主 題 名 涙の友情 [2 - (3) 友情]
- 4 資 料 名 「ないた赤おに」(出典「3 年生のどうとく」文溪堂)

## 5 主題設定の理由

- 本資料は、自分のことを犠牲にしてまでも、友だちのためになることをしたいという高い価値の友情を取り上げている。本主題における価値項目 2—(3)の「友だちと互いに理解し、信頼し、助け合う。」は、友だちどうしがお互いに理解し合い、様々な場面で助け合い、友情を育てることにより良い友だち関係を築かせたいという内容項目である。学校生活においては、様々な友だちとの関わりが生まれ、友だちどうし互いにかかわり合うことで、心が通じ、確かな友情が生まれる。相手を信頼し、友情を育てていくことは、豊かな生活、心の成長につながる。3 年生の児童は、たくさんの友だちと関わりながら、気の合う友だち同士で仲間をつかって自分たちの世界を確保し、楽しもうとする傾向があり、集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし、自分の利害に基づく衝突も多くなることも見られる。このような特性から、3 年生の児童には、健康的な仲間集団を積極的に育成していくことが大切であり、友だちのことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことを中心として指導する必要がある。仲の良さそうに見えるグループのつながりが、友だちのことを考えて行動しているかという点、疑問が残る。本当の友だちとは何なのか、友だちの身になって考えるとはどういうことなのかをしっかりと考えさせていかなければならない。友だち関係のあり方をはじめ、友だちを信頼すること、助け合うことの大切さを、本資料を使って考えていく。そして、そのことが友だちの絆をより一層確かなものにし、友だち関係を充実させていくと考える。
- 本学級の児童は、明るく活発な児童が多い。休憩時間には、クラスの枠を超えて同じ学年のたくさんの友だちと関わりながら学校生活を送っている。思いやりのある児童が多く、係活動で困っている児童がいると手伝ったり、課題に取り組んでいる児童がいると励ましたりすることができる。全体的には、落ち着いてまとまりのある集団である。

しかし、自分がきちんとやるべきことができているなら、できていない児童に声かけや注意ができないこともある。また、困っている友だちを手伝ったり、声をかけたりするのは、本当に相手

のことを考えてやるのではなく、指導者の顔色や評価を意識してやることもある。本当の友だちとは何なのか。相手の立場や気持ちを思いやることで仲良く助けあったり、励ましたりすることができ、友だち関係も深まることを、本教材でしっかりと考えさせていきたい。

- 指導にあたっては、資料「ないた赤おに」を活用する。赤おには、人間と友だちになりたいが、おにということで怖がられ、仲よくはなれない。そこで、青おには赤おにのために村で大暴れの芝居を打つことにする。その結果、赤おには人間と仲良くなれたが青おには置き手紙をしていなくなり、赤おには手紙を読んで涙を流す。本当の友情とは何なのか、相手の身になって考えるとはどういうことなのかをしっかりと考えることのできる資料である。

資料を読む時、話に合わせておにの絵や看板、手紙を提示することで、児童は場面展開が理解しやすくなり、おにたちの心情にせまりやすくなると考える。

基本発問では、村で大暴れをするという青おにの提案を聞いたときの赤おにの気持ちや、「だめだ。しっかりぶつんだよ。」と言われた時の赤おにの気持ちを考えさせる。赤おにの立場にたって、青おにからの提案を聞いた時に赤おにが深く考えていなかったことや、赤おにが、悪いとは思いながらも自分の気持ちに負けていることに気づかせていく。中心発問では、青おにの手紙を読んで涙を流す赤おにの気持ちを考え、ワークシートに考えを書かせ意見交流させる。そして、深く友だちのことを思う青おにの気持ちに気づかせていくことで、自分なら青おにと同じ行動がとれるのか、友だちの身になって考えるということはどういうことか、自分のこととしてしっかり捉えさせていく。

終末では、友だちのことを考えて行動していたかこれまでの生活を振り返り、書く活動を通して整理していく。これまでの友だち関係を振り返りながら、友だちと互いに理解し、信頼し、助け合うことの大切さを確かめていく。教師の説話では、これまでのクラスのできごとの中から、友だちのことを考えた行動を紹介し、また、児童の友だちから学んだこと等の作文を紹介し、今後の自分たちの行動につなげていく。

## 6 準備物

場面の絵、看板、ワークシート、児童作文

## 7 ねらい

- 友だちの大切さに気づき、互いに信頼し合い、助け合おうとする道徳的な心情を育てる。

## 8 本時のポイント

友だちの身になって考え、行動するとはどういうことなのかに気づかせるために、青おにの手紙を読んで涙を流す赤おにの気持ちをワークシートに書いて、話し合う。

9 指導過程

段階	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
導入	1 自分にとって「友だち」とはどんな存在か考える。	○「友だち」とは、どういう人ですか。 ・お話をして楽しい人。 ・一緒に遊んでくれる人。 ・困った時に相談に乗ってくれる人。	○ 友だちとの関わりを想起させ、本時の方向付けをする。
展 開	2 資料「ないた赤おに」を読んで話し合う。	○村で大暴れするという青おにの提案を聞いた時、赤おにはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・そんなことをして、いいのかな。 ・青おにに、悪いな。 ・でも、人間とは仲よくなりたいな。  ○「だめだい。しっかりぶつんだよ。」と言われた時、赤おにはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・友だちをぶつなんて悪いな。 ・ぶたないと、ばれてしまうかな。 ・人間とは、仲良くなりたいな。  ○青おにはどんな気持ちから、置き手紙をして旅に出ましたか。 ・このまま、ここにいたらばれてしまう。 ・赤おにのためにここを離れよう。 ・赤おにが人間と仲よくしてくれればいい。	○ 人間と仲よくなりたいたいという思いが強く、青おにからの提案を受けることがどういうことなのか深く考えていない赤おにを捉えさせる。  ○ 青おにの言った言葉をしっかり捉え、それでも青おにをぶっている赤おにの気持ちを話し合わせる。  ○ 青おにの赤おにを思う気持ちを充分に感じ取らせる。 ○ 赤おにが人間と楽しく暮らしている間も、青おにはどんな気持ちでいたのかをしっかりと振り返らせる。
		◎青おにの手紙を読んで涙を流す赤おには、どんな気もちだったのでしょうか。 ・青おに君に悪いことをしてしまった。 ・さびしい、戻ってきてほしい。 ・ぼくは自分のことしか考えていなかったのに、青おにくんは、ぼくのことだけを考えてくれていたんだ。 ・青おにくんが本当の友だちだったんだ。	○ 友だちを失った赤おにの悲しみと後悔に気づかせる。 ○ 青おにの手紙文の中の「ドコマデモ」「シバラク」「イツマデモ」に着目し、深く友だちを思う青おにの気持ちに気づかせる。 ○ ワークシートに考えを書かせ、友だちと話し合うことにより、ねらいとする価値にせまる。
終 末	5 教師の説話や児童作文を聞く。		○ 自分と友だちとの関係を振り返れる詩を読み、友だちと互いに理解し、助け合うことの大切さを感じ取れるように余韻をもって終わる。